

山崎闇斎学派聞書資料の象徴詞

望月, 正道
九州大学大学院 (修士課程)

<https://doi.org/10.15017/12027>

出版情報 : 語文研究. 56, pp.39-52, 1983-12-10. 九州大学国語国文学会
バージョン :
権利関係 :

山崎闇齋学派聞書資料の象徴詞

望 月 正 道

山崎闇齋学派(崎門)の講義録・談話筆記等のノート類(以下「聞書」と総称する)は、「講義らしい一種の型は又持つてゐるけれども、日常語でくだけて、理をつめて細かく話してゐるので、自然その時代々々の言葉を自在に混じ、それがそのままノートされて残つた所が貴重である」(中村幸彦「近世語彙の資料について」国語学 87・昭和46年12月)と言われる。

本稿は、山崎闇齋学派聞書の国語史資料としての性格を考える一環として、「日常語」として指摘される擬声語・擬態語の多用(例えば、金田弘「漢籍国字解とその言語——江戸崎門学派の講義筆記を中心に——」国語学 123・昭和55年12月の39ページ上段参照)について、実際の程度その時代の日常語を反映しているかの検討を試みるものである。

江戸時代の擬声語・擬態語(以下、擬声語・擬態語を総称する場合)には「象徴詞」と記す)については、宮田裕行・岩崎節子「近世象徴詞考」(東洋大短大紀要九・国語学論説資料15(一九七八年分所収)に詳しい(以下、同論文を△考▽と略称する)。△考▽は、

近松作品105編、西鶴作品28編、歌舞伎7編、「東海道中膝栗毛」、「浮世風呂」、「春色梅兒譽美」、および比較のための謡曲135編と狂言149編、の調査結果である。

また、崎門聞書の源流とも言われる中世の抄物の象徴詞についても諸氏の論考があるが、本稿では、左の一覧表を利用した。

国金順子「抄物の象徴詞」学習院大学国語国文学会誌19・一九七五年12月

金田弘「洞門抄物 擬声語・擬態語一覽」(「洞門抄物と国語研究」第11章、桜楓社・昭和51年11月)

本稿が調査の対象としたのは、10人の講者の講義を筆録した24編の聞書である(本稿末に、講者・録者・使用本文の所在等、一括して掲げる)。講者は学統図中の名を□で囲んである。

表1に、各講者がどれくらい象徴詞を使っているかを示す。異なり語数・使用回数とも強齋が最多で綱齋がこれに次ぐが、これは調査字数が多いためである。一語当たり使用回数も字数が多いほど大きな値になる傾向があるから同程度の字数の講者同士でないと比較

表1

講者	異なり語数 (a)	使用回数 (b)	一語当たり使用回数 (b/a)	およその字数 (単位千) (c)	500字当たり使用回数 (b/2c)
闇斎	60	226	3.77	72.5	1.56
直方	38	96	2.53	40.2	1.19
綱斎	176	652	3.70	292	1.12
強斎	191	683	3.58	251	1.36
訂斎	46	98	2.13	34.4	1.42
鶴山	64	187	2.92	63.8	1.47
不破	65	146	2.25	77.9	0.94
習斎	48	116	2.42	(60)	(1)
黙斎	71	127	1.79	45.6	1.39
晋斎	76	216	2.84	83.2	1.30
計	429	2,547	5.94	1020	1.25

にならないが、平均値の2・79前後に集中していることは認められるだろう。同程度の字数同士では、闇斎の一語当たり使用回数がやや多く、黙斎のそれがやや少ない。闇斎が同じ語を繰り返し使っているのに対し、黙斎はいろいろな語を使い分けているといえる。500字当たり使用回数は、△考√(表1)の一ページ当たり使用回数が、謡曲0・15 対狂言0・99、西鶴0・22 対近松1・41、梅児誉美0・43 対浮世風呂1・92と、それぞれの作品の性格の違いによるらしい差を示すのに対し、同じ崎門の聞書にふさわしく平均値1・25前後に集中している。なお、一つ一つの聞書について500字当たり使用回数を見てみると、綱斎『劄録』の0・26から「闇斎敬斎箴講説」の4・50までかなりのばらつきがあるが、これは筆録者によって象徴詞を書き留める程度が異なることのほかに、崎門では後述するような

象徴詞の集中的使用があるためである。

表2はモロー別の異なり語数を各時代の資料と比較するものである。「中古」「中世A」「中世B」「近世文学」は△考√による。このうち「中古」の原資料は、山口仲美「中古象徴詞の語彙構造——清濁に問題のある語例を中心に——」国語学93・昭和48年6月、「中世A」の原資料は、前島年子「時代を通して見た舞声語・舞態語」東京女子大学日本文学28・昭和42年3月である。また、「関西系抄物」「洞門抄物」の異なり語数は、前掲国金一寛表・金田一寛表から作表し、使用回数は、国金一寛表の()内の数によった(異なり語数より調査対象の範囲が狭い。「崎門聞書」の異なり語数には、調査対象範囲外から採集したもの(△)を含む。

崎門の聞書では、③⑨⑫(一、三、四モローの繰り返し)、⑬⑭⑮(五モローとその置語・繰り返し)、⑯(六モローの置語)、⑳(九モロー以上)が見られない。特に⑬は近世文学では45種も見られたものである。また、謡曲・狂言や近世文学で異なり語数の1割前後を占める⑥(二モローの三回以上の繰り返し)が、崎門聞書ではわずかに2語10例しか見られないが、この点は抄物も同様の傾向を見せる。異なり語数最多は⑤(二モローの置語)で(洞門抄物以外は一致して⑥が最多)、これに次いで⑩(四モロー)が2割を占めることが注目される。崎門聞書では使用回数でも、④⑤に次いで、⑩が2割を占める。

このモロー別分類を各講者ごとに集計したのが表3である。崎門聞書の合計では⑩(四モロー)の多さが目立ったが、講者別で見た場合にも、訂斎・晋斎で異なり語数・使用回数とも最多を示している。訂斎と晋斎は学統図でわかるように同じ三宅尚斎の門流であるが、そのせいでもあるだろうか。使用回数で見ると、綱斎とその門流の強斎・鶴山では④と⑤が各3割で⑩がこれに次いでいる。闇斎と不破では④が最多で⑩がこれに次ぎ、直方と習斎では④に次ぐの

崎門学統図

(楠本頼水・岡直養
『崎門学派系譜』他による)

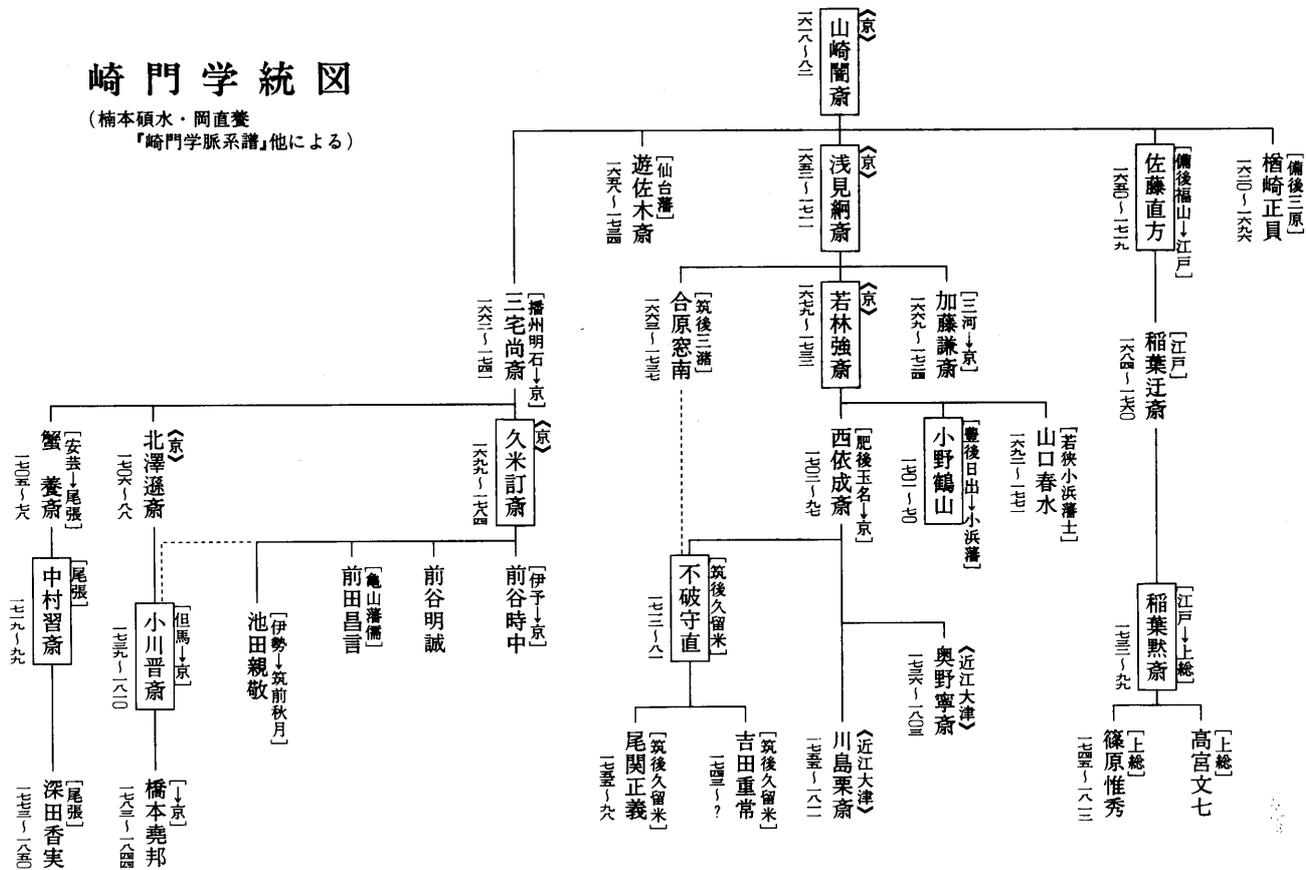


表2

計	⑳九モ一ラ以上	㉑八モ一ラ	㉒七モ一ラ	㉓六モ一ラの疊語	㉔六モ一ラ	㉕五モ一ラの繰り返り返し	㉖五モ一ラの疊語	㉗五モ一ラ	㉘四モ一ラの繰り返り返し	㉙四モ一ラの疊語	㉚四モ一ラ	㉛三モ一ラの繰り返り返し	㉜三モ一ラの疊語	㉝三モ一ラ	㉞二モ一ラの繰り返り返し	㉟二モ一ラの疊語	㊱二モ一ラ	㊲一モ一ラの繰り返り返し	㊳一モ一ラの疊語	㊴一モ一ラ		
125 (100)							1 (0.8)							9 (7.2)	14 (11.2)		72 (57.6)	17 (13.6)	8 (6.4)	4 (3.2)	中	古
299 (100)	13 (4.3)	2 (0.7)	3 (1.0)		6 (2.0)	1 (0.3)	1 (0.3)	9 (3.0)	3 (1.0)	6 (2.0)	33 (11.0)	5 (1.7)	27 (9.0)	46 (15.4)	38 (12.7)	58 (19.4)	42 (14.0)	3 (1.0)		異なり語数		
574 (100)	2 (0.3)	5 (0.9)	1 (0.2)		5 (0.9)	1 (0.2)	5 (0.9)		2 (0.3)	65 (11.3)	1 (0.2)	30 (5.2)	147 (25.6)	1 (0.2)	192 (33.4)	96 (16.7)	3 (0.5)	8 (1.4)	10 (1.7)	関西系抄物		
468 (100)		2 (0.4)	1 (0.2)				1 (0.2)	2 (0.4)		4 (0.9)	39 (8.3)		35 (7.5)	201 (42.9)	1 (0.2)	92 (19.7)	81 (17.3)	1 (0.2)	2 (0.4)	6 (1.3)	洞門抄物	
463 (100)		9 (1.9)	3 (0.6)		4 (0.9)					4 (0.9)	109 (23.5)		33 (7.1)	77 (16.6)	2 (0.4)	152 (32.8)	65 (14.0)		1 (0.2)	4 (0.9)	崎門聞書*	
1,370 (100)	92 (6.7)	36 (2.6)	48 (3.5)	1 (0.1)	64 (4.7)		3 (0.2)	45 (3.3)	3 (0.2)	38 (2.8)	173 (12.6)	10 (0.7)	115 (8.4)	144 (10.5)	131 (9.6)	348 (25.4)	107 (7.8)	8 (0.6)	2 (0.1)	2 (0.1)	近世文学	
776 (100)							1 (0.1)						10 (1.3)	21 (2.7)		380 (49.0)	61 (7.9)		31 (4.0)	272 (35.1)	中	古
843 (100)		30 (3.6)					1 (0.1)	6 (0.7)	4 (0.5)	9 (1.1)	48 (5.7)	8 (0.9)	36 (4.3)	83 (9.8)	30 (3.6)	392 (46.5)	134 (15.9)	5 (0.6)	3 (0.4)	54 (6.4)	中世A	使用回数
1,226 (100)	15 (1.2)	2 (0.2)	5 (0.4)		8 (0.7)	1 (0.1)	12 (1.1)	13 (1.1)	4 (0.3)	8 (0.7)	96 (7.8)	10 (0.8)	124 (10.1)	208 (17.0)	122 (10.0)	174 (14.2)	410 (33.4)	4 (0.3)		10 (0.8)	謡曲・狂言	
1,316 (100)		2 (0.2)			1 (0.1)		1 (0.1)	2 (0.2)		10 (0.8)	28 (2.1)		26 (2.0)	176 (13.4)		272 (20.7)	544 (41.3)	1 (0.1)	11 (0.8)	242 (18.4)	関西系抄物	
2,882 (100)		1 (0.0)	2 (0.1)	1 (0.0)			3 (0.1)	4 (0.1)		7 (0.2)	182 (6.3)		46 (1.6)	615 (21.3)	2 (0.1)	175 (6.1)	1,834 (63.6)		1 (0.0)	9 (0.3)	洞門抄物	
2,547 (100)		15 (0.6)	3 (0.1)		9 (0.4)					4 (0.2)	589 (23.1)		88 (3.5)	229 (9.0)	10 (0.4)	636 (25.0)	953 (37.4)		1 (0.0)	10 (0.4)	崎門聞書	
9,943? (100)	98 (1.0)	67 (0.7)	70 (0.7)	2 (0.0)	147 (1.5)		3 (0.0)	82 (0.8)	4 (0.0)	50 (0.5)	597 (6.0)	13 (0.1)	455 (4.6)	1,553 (15.6)	502 (5.0)	2,321 (23.3)	3,658 (36.8)	318 (3.2)	2 (0.0)	5 (0.1)	近世文学	

表3

計	⑭ 八モータ	⑬ 七モータ	⑫ 六モータ	⑪ 四モータの疊語	⑩ 四モータ	⑨ 三モータの疊語	⑧ 三モータ	⑦ 二モータの疊語	⑥ 二モータの疊語	⑤ 二モータの疊語	④ 二モータ	③ 一モータの疊語	② 一モータ	① 一モータ	講者	
60 (100)					16 (26.7)	2 (3.3)	11 (18.3)		9 (15.0)	21 (35.0)	1 (1.7)				闇齋	異 な り 語 数
38 (100)				1 (2.6)	9 (23.7)	1 (2.6)	2 (5.3)		11 (28.9)	13 (34.2)			1 (2.6)		直方	
176 (100)	6 (3.4)				44 (25.0)	10 (5.7)	18 (10.2)	2 (1.1)	62 (35.2)	32 (18.2)			2 (1.1)		綱齋	
191 (100)	3 (1.6)		4 (2.1)		44 (23.0)	12 (6.3)	26 (13.6)		65 (34.0)	35 (18.3)			2 (1.0)		強齋	
46 (100)					19 (41.3)	4 (8.7)	5 (10.9)	1 (2.2)	9 (19.6)	8 (17.4)					訂齋	
64 (100)	2 (3.1)				14 (21.9)	5 (7.8)	6 (9.4)		17 (26.6)	20 (31.3)					鶴山	
65 (100)					17 (26.2)		7 (10.8)		18 (27.7)	22 (33.8)			1 (1.5)		不破	
48 (100)					2 (4.2)	7 (14.6)	7 (14.6)	8 (16.7)	12 (25.0)	12 (25.0)					習齋	
71 (100)	1 (1.4)				15 (21.1)	2 (2.8)	10 (14.1)		25 (35.2)	18 (25.4)					黙齋	
76 (100)	1 (1.3)	1 (1.3)	1 (1.3)		25 (32.9)	4 (5.3)	16 (21.1)		16 (21.1)	12 (15.8)					晋齋	
429 (100)	8 (1.9)	2 (0.5)	4 (0.9)	4 (0.9)	100 (23.3)	32 (7.5)	71 (16.6)	2 (0.5)	137 (31.9)	65 (15.2)	1 (0.2)	4 (0.9)			計	
226 (100)					46 (20.4)	3 (1.3)	16 (7.1)		17 (7.5)	143 (63.3)	1 (0.4)				闇齋	
96 (100)					1 (1.0)	15 (15.6)	1 (1.0)	10 (10.4)	20 (20.8)	41 (42.7)			2 (2.1)		直方	
652 (100)	10 (1.5)				142 (21.8)	32 (4.9)	37 (5.7)	9 (1.4)	194 (29.8)	225 (34.5)			3 (0.5)		綱齋	
683 (100)	3 (0.4)		6 (0.9)		141 (20.6)	21 (3.1)	53 (7.8)		218 (31.9)	237 (34.7)			4 (0.6)		強齋	
98 (100)					44 (44.9)	5 (5.1)	5 (5.1)	1 (1.0)	14 (14.3)	29 (29.6)					訂齋	
187 (100)	2 (1.1)				31 (16.6)	10 (5.3)	11 (5.9)		67 (35.8)	66 (35.3)					鶴山	
146 (100)					35 (24.0)		27 (18.5)		21 (14.4)	62 (42.5)			1 (0.7)		不破	
116 (100)					2 (1.7)	10 (8.6)	10 (8.6)	11 (9.5)	21 (18.1)	62 (53.4)					習齋	
127 (100)	1 (0.8)				35 (27.6)	2 (1.6)	20 (15.7)		34 (26.8)	35 (27.6)					黙齋	
216 (100)	2 (0.9)	3 (1.4)	1 (0.5)		90 (41.7)	4 (1.9)	39 (18.1)		30 (13.9)	47 (21.8)					晋齋	
2,547 (100)	15 (0.6)	3 (0.1)	9 (0.4)	4 (0.2)	589 (23.1)	88 (3.5)	229 (9.0)	10 (0.4)	636 (25.0)	953 (37.4)	1 (0.0)	10 (0.4)			計	

表 4

⑦								⑧		⑤				④				②	①	講者	異なり語数			
A B ン	A B ッ	A B リ	A B ロ	A ン A	A ン B	A ッ A	A ッ B	A ー く く	A B く く	A ー く	A ン く	A ッ く	A B く	A ー	A ン	A ッ	A B	A A	A					
	4	1					6						9		3	8	10		1			關直綱強	斎方齋齋	
	15						2	1	1	4			10	1	1	4	7				2	關直綱強	斎方齋齋	
	16	1	1				5			3	2		58	1	4	13	13				2	訂鶴不習	山破齋齋	
	1	4					1	1		1			8		1	4	3				1	訂鶴不習	山破齋齋	
		5					3			3			13		5	9	6						習	齋齋
		4					4			1			16		2	8	12						習	齋齋
	2	3					3			1	1		11		3	3	6						計	
	1	13					1						16		2	6	4						(+*)	
	3	2	39	1	1	1	4	1	1	8	3	7	119	4	10	21	30	1	4					
	(3)	(43)		(2)			(18)						(134)											
		7					7						17		41	71	31	1					關直綱強	斎方齋齋
		1					9						16	1	1	17	28						關直綱強	斎方齋齋
		21					15			8			185	3	123	42	57						訂鶴不習	山破齋齋
		1	23	3	1		5	4	5	5	2		208	1	111	52	73						訂鶴不習	山破齋齋
		1	4				4			4			10		16	8	5						訂鶴不習	山破齋齋
		7					4			4			62		42	13	11						訂鶴不習	山破齋齋
		11					16			1			19		5	34	23						習	齋齋
		6					2						3		4	12	46						計	
	3	6					10			2	1		29		9	19	7							
	1	35					2						30		23	13	11							
4	2	121	3	1	1	8	86	5	5	24	3	14	595	5	375	281	292	1	10				計	

⑬	⑭	⑮	⑯	⑩								③						講者	異なり語数					
その他の4・4	A B く a b く	4・3	A B リ a ン	A B C a B C	A B a B く	A B B リ く	A B a b	A B a B	A B リ ッ	A ー B リ	A ン B リ	A ッ B リ	A B リ く	A B ロ く	A ッ A く	A ッ B く	A A ー			A B ー				
						1							2					1					關直綱強	斎方齋齋
	1	5											1										關直綱強	斎方齋齋
	1	2											7										訂鶴不習	山破齋齋
	2												6										訂鶴不習	山破齋齋
													9										習	齋齋
													2	1									計	
													5		2								(+*)	
													5											
													1											
	2	6	2	1	3	1	3	10	11	8	2	15	54	20	1	2	9	1	1					
	(7)	(3)						(12)				(16)	(60)	(21)										
													3										關直綱強	斎方齋齋
													1										關直綱強	斎方齋齋
													13										訂鶴不習	山破齋齋
													112										訂鶴不習	山破齋齋
													102										習	齋齋
													33										計	
													10											
													34											
													8											
													1											
													31											
													14											
													462											
													70	1	2	15							計	
2	13	3	1	8	1	3	16	20	15	6	70	462	70	1	2	15	1	2						

表 5

⑦		⑤				④				
A ッ A	A ッ B	A 丨 ㄣ	A ン ㄣ	A ッ ㄣ	A B ㄣ	A 丨	A ン	A ッ	A B	
1 (0.3)	16 (5.4)	5 (1.7)	2 (0.7)	4 (1.3)	50 (16.7)	8 (2.7)	5 (1.7)	17 (5.7)	12 (4.0)	謡曲・狂言
9 (1.6)	46 (8.0)	16 (2.8)	8 (1.4)	10 (1.7)	158 (27.5)	10 (1.7)	7 (1.2)	26 (4.5)	53 (9.2)	関西系抄物
3 (0.6)	57 (12.2)	8 (1.7)		23 (4.9)	61 (13.0)	14 (3.0)	6 (1.3)	34 (7.3)	27 (5.8)	洞門抄物
4 (0.9)	18 (3.9)	8 (1.7)	3 (0.6)	7 (1.5)	134 (29.0)	4 (0.9)	10 (2.2)	21 (4.5)	30 (6.5)	崎門聞書*
10 (0.7)	43 (3.1)	23 (1.7)	24 (1.8)	12 (0.9)	287 (20.9)	13 (0.9)	20 (1.5)	35 (2.6)	39 (2.8)	近世文学

⑦											
A 丨 ン	A A ン	A B ン	A B ッ	A B リ	A B ロ	A A ラ	A B ラ	A 丨 B	A ン A	A ン B	
2 (0.7)	1 (0.3)	2 (0.7)		21 (7.0)	1 (0.3)					1 (0.3)	謡曲・狂言
	1 (0.2)	1 (0.2)		57 (9.9)		2 (0.3)	12 (2.0)		10 (1.7)	7 (1.2)	関西系抄物
	2 (0.4)		7 (1.5)	26 (5.6)						3 (0.6)	洞門抄物
		3 (0.6)	3 (0.6)	43 (9.3)	1 (0.2)				2 (0.4)	1 (0.2)	崎門聞書*
6 (0.4)	3 (0.2)	4 (0.3)	2 (0.1)	51 (3.7)	3 (0.2)		1 (0.1)	2 (0.1)	6 (0.4)	8 (0.6)	近世文学

⑧								⑦			
A B リ ㄣ	A B ロ ㄣ	A A ラ ㄣ	A B ラ ㄣ	A 丨 B ㄣ	A ン B ㄣ	A ッ A ㄣ	A ッ B ㄣ	A B B	A A 丨	A B 丨	
18 (6.0)	1 (0.3)		2 (0.7)				5 (1.7)			1 (0.3)	謡曲・狂言
17 (3.0)	1 (0.2)	1 (0.2)					7 (1.2)	1 (0.2)	1 (0.2)		関西系抄物
15 (3.2)	1 (0.2)		2 (0.4)		1 (0.2)	2 (0.4)	15 (3.2)			3 (0.6)	洞門抄物
21 (4.5)	1 (0.2)						9 (1.9)		1 (0.2)	1 (0.2)	崎門聞書*
55 (4.0)	4 (0.3)		6 (0.4)	3 (0.2)	7 (0.5)	2 (0.1)	21 (1.5)	1 (0.1)			近世文学

⑩				⑧								
A ッ A ラ	A ッ B ラ	A ー A ッ	A ン A ッ	A B C 〜	A B B 〜	A A ー 〜	A B ー 〜	A ー ン 〜	A A ン 〜	A B ン 〜		
1 (0.3)				1 (0.3)							謡曲・狂言	
2 10 (0.3)(1.7)				2 (0.3)			1 (0.2)		1 (0.2)			関西系抄物
				1 (0.2)							洞門抄物	
											崎門聞書*	
2 4 (0.1)(0.3)				3 1 1 (0.2)(0.1)(0.1)			1 1 (0.1)(0.1)		6 2 (0.4)(0.1)		3 (0.2)	近世文学

⑩												
A A A ッ	A A ッ A	A B B B	A B ー ン	A B ー リ	A B リ ン	A B リ ッ	A ー B リ	A ン A リ	A ン B リ	A ッ B リ	A ン B ラ	
1 3 (0.3)(1.0)						2 24 (0.7)(8.0)						謡曲・狂言
1 1 1 15 19 7 (0.2)(0.2)(0.2)(2.6)(3.3)(1.2)												関西系抄物
26 (5.6)						2 6 (0.4)(1.3)						洞門抄物
8 2 (1.7)(0.4)						16 60 (3.5)(13.0)						崎門聞書*
1 (0.1)	1 (0.1)	2 3 (0.1)(0.2)		1 (0.1)	2 10 (0.1)(0.7)		3 3 (0.2)(0.2)		15 98 (1.1)(7.2)			近世文学

① ↓ ②	⑩											
	A ッ B C	A B C D	A B a b	A l a l	A ン a ン	A ッ a ッ	A B a B	A B A b	A ー l ッ	A A A ン		
299 (100)	2 (0.7)					1 (0.3)						謡曲・狂言
574 (100)	3 3 (0.5)(0.5)		1 (0.2)			2 (0.3)					関西系抄物	
468 (100)	1 (0.2)				3 (0.6)			1 (0.2)				洞門抄物
462 (100)	11 (2.4)						11 (2.4)				崎門聞書*	
1,370 (100)	1 (0.1)	3 3 (0.2)(0.2)		1 (0.1)	17 1 (1.2)(0.1)					3 (0.2)		近世文学

朕ト萬象森然トハトソトウラハラナクヒチカフタ。沖漢無朕ハ、ドウモアヤワケノ見ヘヌ。萬象森然ハ、カンザリト見ヘタ。 (中略) 人ノ上テハ、君臣ハタノモシク、親子ハ親ミ、兄弟ハ睦シト云ナリガ、奥モ底モナイゾ。マツカフシタガンザリナリガスグニ沖漢無朕ジヤト云合点ユカネバ、道ニ目ガアイタデナイ。天地未開陰陽未分、日月星辰トモ山川草木、父子君臣トモ未云ハヌサキカラ云ヘバ、沖漢無朕ジヤガト云ナリガ今日ノガンザリトシタナリ。今日ノガンザリガアトカラ出タデナイ。(綱齋「近思錄道體師說(B)」沖漢無朕云云条)

以下、この条になお3例の「ガンザリ」が見えるが、いずれも「萬象森然」の説明に使われている。「仁」に対応する「ジミ」に於ては、綱齋「近思錄道體師說(B)」で63回、「強齋先生近思錄道體講義」で73回、鶴山「近思錄講義」道體で41回(いずれも「シミ」を合わせた数)使われているが、例えば綱齋では、「仁者天下之公之本也」条に「ジク〜ジミ〜」と合わせて19例、「仁者天下之正理云云」条では「ジミ〜ジク〜」と合わせて12例というように集中して使われている。一部を示す。

仁ト云ノ正味真味ヲヒキヌイテ云トキハ、シミ〜ト身カラヤマレヌト云アノジミ〜ジク〜トシタ味ガ仁ノ正味ゾ。正ノ字ノ味ガ其ジミ〜トノヤマレヌ、忍ビニ忍ビラレヌ味。シミ〜ヲ云ハフトテ正理ト仰セラレタ。其ジミ〜ジク〜ガ、親ニジク〜ナレバ孝ト云名ガ付。君ニジク〜ナレバ忠ト名ガ付。其ジク〜ガ、アワレナクニハ涙ト名ガツク。恥シイ〜ニハ汗ト名ガツク。ソレハジミ〜ノアラワレテカラ云ヘバ、孝ノ忠ノ礼ノ義ノト名ガツク。其正味真味ヲヒキヌイテイ

ヘト云ヘバ、アノジミジク〜ノ、身トトモニヤムニヤマレヌ味ヨリナイ。ソコロ仁ト云ユヘ(以下略)(綱齋(B)仁者天下之正理云云条)

このような集中使用は、表3・表4のモータ別や語音結合の型の比率といった数値などにもかなり影響を与える。言い換えれば、崎門の聞書に現れる象徴詞は、仮にその個々が当時通用していた語であるとしても、使用頻度などの点ではかなり特殊なものであるということである。

さらに、次のようなことも考えねばならない。

ガンザリトシタナリガ〇セヌ先ノナリガ、トントカウシタナリゾ。コゝガ萬象森然ゾ。象ハジキニカタチデ云「ジヤガ、ソレナラバ沖漢無朕トハ云ハヌハズ。サレバ形ナイナリノ形ゾ。道體ノ体ノ字、コゝデトクト理會スベシ。今日カウシタガンザリト見ヘタナリガ、コレガ理ノナリ。(中略)微塵、音サナリ模様ナイナリガ理ノナリデ、今日見ヘタ天地万物ガンザリトシタナリゾ。コレガ合点ユカネバ、イツ迄モ道體識タデハナイ。森然ハ、長度杉松ノ柿ノ栗ノト並テ、ハエシゲリテアルモノデ、森ト云。ソレ仰デミレバ日月星辰、俯テミレバ水火木石、父子君臣夫婦長幼朋友禽獸草木、ツラリト見ヘタナリ並立テ、カウシタガンザリト云タナリ、カウ、チラヌ先カラ、カウコゝガ本然ゾ。(強齋先生近思錄道體講義)沖漢無朕萬象森然云云条) 今日カンザリト天地日月星辰山水草木君臣父子ト成タナリノ、成ラザル先ノガンザリカ万象森然已具ゾ。萬理ト云ヘキヲ象ト云ガ、程子ノ夥シイ發明テ、大事ノ旨ゾ。(象ハカタチト訓ムカ、ハキトナリノアル形テナイ。ソレカアルナレハ沖漢無朕ト

云ハレヌ。形ナイナリノ形ソ。道體ノ體ノ字ソ。道ノ形ト云カ
 是ソ。今日ガンザリト見エタ形ハ、理ナリガ形シタモノ。其形
 セザル先カラ、其理ハリントノアル。(中略)形ナイ先カラ、
 カフ云形タル理ハ実ノ居ル程ニ、有無一體テ音モサナリモナイ
 ナリガ、今日ノ天地万物ガンザリノナリソ。コヽガ無極而太極
 ソ。道體ノ至極ソ。(森然ハ、木ノイカイヲ生蕃タ模様ソ。天地
 日月水土石、ツラリト並ヒ立テカンサリトノアル。(鶴山)近
 思録講義」道體、冲漢無朕萬象森然已具云云条)

右の強齋・鶴山を、先に引いた綱齋(B)と比較してみれば、強
 齋が綱齋(B)を、鶴山は強齋を、それぞれ下敷きしていること
 がわかる。象徴詞もこのように「師説」の一部として継承されてい
 くのであっては、個々の象徴詞が、当時一般に通用していたかどう
 かもあやしいといわねばならない。

(ちなみに、同門でも時代の下の川島栗齋では、右の条で「ガンザ
 リ」を使わず、

萬象ト云ハヨロツノカタチ、森然ト云ハモリ林ヲミル如ク、數
 限りモノウツクト並ヒ立テアル白(略)萬象森然ハ、アル
 ホドニマザシウ並ヒ立テアルノキハマリ。
 と説明している。)

結局、崎門の聞書に見える象徴詞について、その出自が日常語に
 あるとしても、その聞書が筆録された当時の日常語かどうかの保証
 はなく、一時代前の日常語を、時にはかなり特殊な気味合いで、用
 いている場合もあるだろう、ということになる。これは恐らく、象
 徴詞にのみあてはまることではないだろう。

〔資料一覽〕

- 資料とした聞書の、講者・録者・講義の行なわれた年・使用した本文の所在など
 を左に記す。未詳の項は省略した。
- 1 山崎闇齋講「大学垂加先生講義」延宝七年(1729)にかけての講義。本文は日本思想大系「山崎闇齋学派」(岩波書店。約29・6千字。
 - 2 同「本然氣質性講説」遊佐木齋録。本文は同右。約1千字。
 - 3 同「敬斎箴講義」伝存する二本の二に「直方之所識」とある。本文同右。約1.7千字。
 - 4 同「闇齋敬斎講説(仮題)」輪崎正員による板本への書入れ。本文同右。約2.0千字。
 - 5 同「神代卷講義」浅見綱齋録。本文は 日本思想大系「近世神道論・前期国学」。約29・2千字。
 - 6 佐藤直方講「敬説筆記」本文は日本思想大系「山崎闇齋学派」。約1.7千字。
 - 7 同「講字鞭策録」の一部(敬斎箴講義)。本文同右。約1.1千字。
 - 8 同「学談雜録」本文同右。約28・3千字。
 - 9 浅見綱齋講「綱齋先生敬斎箴講義」元禄八年の講義か? 本文同右。約42・8千字。
 - 10 同「仁説問答師説」宝永三年と七年の講義、若林強齋録。本文同右。約31・5千字。
 - 11 同「綱齋先生仁義礼智筆記」本文同右。約6.3千字。
 - 12 同「割録」宝永三年の講話。若林強齋以下の門人が交替で筆録したもの。本文同右。約59・3千字。
 - 13 同「綱齋先生近思録道體師説(A)」加藤謙齋録。九州大学文学部中国哲学研究室坐春風文庫蔵。宝曆十二年奥野室齋転写本。栗齋の門人かと思われる近江大津木村氏旧蔵。約38・1千字。
 - 14 同「近思録道體師説(B)」元禄十七年の講義。若林強齋の筆録であろう。坐春風文庫蔵。寛政三年奥野室齋転写本(木村氏旧蔵)。約111・2千字。
 - 15 若林強齋談「雜話筆記」上巻(享保四年の分)、山口春水録。本文は日本思想大系「山崎闇齋学派」。約38・1千字。
 - 16 同講「小学師説」巻一・巻二上・(六卷八冊のうち)、坐春風文庫蔵。天保三年写本(木村氏旧蔵)。約104・9千字。濁点が豊富に付されている。

17 同「強齋先生近思錄道體講義」乾坤二冊。坐春風文庫蔵。近世末写本（木村氏旧蔵）。約1冊・3千字。

18 久米訂齋講「久米先生講席打聞」のうち、池田郷敬録6編と前田昌言録（郷敬写）3編。明和三四、五年の講義。前谷時中らに提出して朱批を乞うている。九州大学中央図書館碩水文庫蔵（楠本碩水旧蔵）。寛政二年。当時筑前秋月藩に招かれていた小川晋齋が池田郷敬に借りて写したもの。

19 小野鶴山（道照）講「近思錄講義道體」（十四卷五冊のうち）、「明和甲申秋。小野道照誦述」とあり、あるいは書かれた聞書かとも疑われる。坐春風文庫蔵写本。不敬守直講「小学聞書」内篇一（内外篇五冊のうち）、明和九年、筑後久留米での講義。尾岡正義録。九州大学中央図書館蔵。尾岡正義自筆浄書本。

20 同「小学聞書」内篇二（20と合わせて五冊のうち）。明和元年、筑後久留米での講義。吉田重常録。尾岡正義浄書本。20・21に久留米方言の反映が見られることについては、文献探究12号に報告した（「筑後久留米の山崎蘭齋学派聞書資料について」一九八三年七月）ので参照されたい。

21 中村習齋講「習齋先生近思錄講義」乾（序・目錄・道体く克己）。寛政六年、七年の尾張名古屋での講義。深田香実録。九州大学文学部中国哲学研究室蔵。深田香実自筆本。走り書きあり、再度の聴講での書き入れありで、字数はごく大雑把な数字。サ行四段動詞イ音便が目立つ。

22 稲葉然齋講「^{九思}近思錄講義」(道体講義三冊のうちの第二冊、上総での講義。高宮文七。篠原惟秀録の校本。坐春風文庫蔵。享和二年以前の写本。

23 小川晋齋講「小川晋齋大学講義」文化三年から四年にかけての講義。楠本堯邦録。碩水文庫蔵。楠本堯邦自筆本。文末詞の一部に「マスル」が見える。

24 以上の他、全数調査はしていないが、若干の象徴詞を抜き出した聞書を左に記す。表2・表5の異なり語数と表4の異なり語数計(+*)は、これらを加えた数字。

- * 川島栗齋講「栗齋先生近思錄講義」坐春風文庫蔵写本（木村氏旧蔵）。
- * 久米訂齋講「周易本義口義」宝曆三年前分明誠録。碩水文庫蔵写本。
- * 不敬守直講「小学聞書」内篇三、外篇一、二、21の続き（吉田重常録）。
- * 小川晋齋講「小川晋齋中庸講義」文化四年から五年にかけての講義。楠本堯邦録。碩水文庫蔵。楠本堯邦自筆本。小川晋齋の朱批あり。24に続く講義。

【語例一覽】

本稿で扱った24編の聞書に見える象徴詞を、語音結合の型により分類して示す。数字は使用回数(*は24編以外に見えるもの)。金田・田金一覽表で関西系抄物の用例があるものに「西」、洞門抄物の用例があるものに「洞」、関西系にも洞門にも用例があるものに「抄」、また八考Vで謡曲・狂言の用例があるものに「狂」、近世文学の用例があるものに「近」を添字する。表記は一例で示す(例えば、「シハ〜」と「シワ〜」のように表記のみ異なると思われるものについては、その一のみを示す)。

①一モ一ラ
AAV ギヤ1、ズ1、ソ1(西狂)、フ7(抄狂近)

②一モ一ラの疊語
AAV チヨチヨ1

③二モ一ラ

AAABV ウカ21(西近)、カキ1、ギク1(近)、キシ1、ギス4、グイ5(近)、グス2(洞)、グニヤ1、シカ9(西)、ジク5、スイ1(西)、ズカ11、スキ38(抄)、ツプ1(近)、チヨイ1(狂近)、チラ1(近)、ツイ1(近)、テキ4、テシ2、トク94(狂)、ニヨイ1、ハキ25、ヒシ18(洞近)、ヒタ32(抄近)、ヒヨ13(近)、フイ2(近)、ベタ1、ムサ4(抄)、ムザ1、ムチャ1

AAVV カツ1(洞狂近)、キツ88(抄狂近)、ギヤツ10(洞狂近)、クツ3(抄狂近)、グツ8(洞狂近)、クワツ3(抄狂近)、サツ2(抄狂近)、ザツ2(抄狂近)、ヂツ63(抄狂近)、スツ4(抄近)、ツ、23(抄近)、ソツ9(西近)、チャツ4(抄狂近)、ツ、2(抄狂近)、ニヨツ7(抄狂近)、ハツ7(抄狂近)、パツ20(抄狂近)、パツ2(狂近)、ヒヨツ6(抄狂近)、フツ12(抄狂近)、ホツ5(洞近)

AAV ウン3(近)、シャン3(近)、ツン15(抄近)、チャン1、チン1(抄近)、テン1、トン15(近)、ピン2(近)、リン71(近)、ワン2(近)

AAV キイ1、ズフ1(狂)、ドフ1(抄狂近)、ハフ2(狂近)

④二モ一ラの疊語

AAABV イソ〜1(近)、イブ〜1、イラ〜1(西)、ウカ〜12(抄狂近)、ウキ〜10(狂近)、ウヂ〜2(狂近)、ウネ〜1(狂近)、ウロ〜

4 (西近)、ウハ〜1 (近)、オイ〜*、ラジ〜1、ラツ〜3 (近)、ガチ
 〜3、オメ〜1 (西)、オロ〜* (近)、ガサ〜1、ガタ〜* (近)、ガ
 ミ〜3、カラ〜3 (抄近)、ガリ〜* (近)、ガワ〜1 (西)、ギク〜1
 (近)、ギシ〜3 (近)、ギチ〜*、キャ〜1 (近)、キラ〜1 (西近)、
 キリ〜2 (近)、ギリ〜1 (近)、クシ〜*、グツ〜2 (近)、クタ〜1、
 グト〜2 (西)、グニヤ〜2、クヨ〜1 (狂近)、グリ〜3、クル〜16
 (抄狂近)、グル〜8 (近)、グレ〜2 (近)、グワラ〜1 (近)、ケラ〜
 * (近)、ゴザ〜1、コセ〜2 (西)、コソ〜12 (洞狂近)、ゴツ〜1 (近)、
 ゴト〜1、ゴミ〜1、コロ〜3 (西近)、サラ〜* (洞狂近)、ザワ〜1
 (近)、シホ〜1 (狂近)、ジカ〜1、ジク〜6 (近)、シト〜3 (西近)、
 シミ〜10 (洞近)、ジミ〜16 (狂近)、シメ〜*、シヨボ〜1 (近)、チリ
 〜6 (洞近)、ジロ〜1 (西近)、シハ〜7 (近)、ズカ〜16、スゴ〜1
 (抄狂近)、スラ〜9 (西近)、ツラ〜4 (近)、ズル〜2 (近)、ゾク〜
 4 (近)、ソゲ〜1、ソゴ〜2、ソヨ〜1 (抄近)、ソロ〜31 (抄狂近)、
 ソロ〜11 (近)、チク〜1 (抄近)、チヨコ〜1 (近)、チラ〜6 (抄近)、
 ツヤ〜1 (近)、ツラ〜45 (近)、テシ〜1、テラ〜2 (洞近)、トク〜
 4 (西近)、ドク〜1、トバ〜1 (近)、トボ〜1 (近)、ナミ〜3 (西
 狂)、ニギ〜1 (西)、ニコ〜8 (抄近)、ニヨ〜1、ヌメ〜1 (西)、
 ヌル〜* (抄近)、ノビ〜4 (抄)、パタ〜5 (西近)、パチ〜2、パチ
 〜1 (近)、ハラ〜1 (抄狂近)、バラ〜14 (抄狂近)、ヒガ〜*、ピク
 〜* (近)、ヒシ〜1 (抄近)、ヒタ〜2 (近)、ピチ〜1 (近)、ヒヨ
 〜2 (近)、ヒヨイ〜4、ヒヨカ〜*、ヒヨコ〜1 (近)、ヒヨロ〜2
 (狂近)、ヒラ〜3 (西近)、ヒリ〜2 (西近)、プク〜* (近)、フサ〜
 1 (近)、フラ〜3 (西狂近)、ブラ〜9 (洞狂近)、フハ〜2 (近)、ベタ
 〜2 (近)、ホカ〜1 (近)、ホケ〜1 (西)、ホコ〜6、ポツ〜1 (洞)、
 ホノ〜2 (抄狂近)、ホヤ〜1 (西近)、ボラ〜1、ホロ〜* (洞狂近)、
 マザ〜3 (近)、ミシ〜1 (近)、ムカ〜1 (近)、ムク〜1 (近)、ムゴ
 〜3、ムデ〜1、メシヤ〜1、モジヤ〜1 (近)、モヤ〜8 (近)、ユブ
 〜4、ユラ〜1 (近)、ユル〜1 (抄狂近)、ヨゴ〜1、ワヤ〜2 (近)
 AAッ〜 カツ〜1 (抄)、キヨツ〜1、スツ〜1 (近)、ズツ〜1、
 チヨツ〜7 (洞)、ツ〜* (洞)、パツ〜3 (西)
 AAン〜 カン〜1 (近)、ピン〜1 (近)、プン〜1 (近)

AA一〜 ア〜2、ヲ〜1 (近)、キイ〜1 (近)、ズウ〜14、ト
 ウ〜2 (西狂)、ドウ〜2 (抄近)、ノウ〜1 (近)、ハア〜1
 ◎二モーラの繰り返し(×3以上)
 AB〜 ソロ〜5
 AA一〜 ツウ〜*・ズウ〜5
 ◎三モーラ
 AAッB ヲツキ1 (近)、キツチ1、ゴツチャ3 (抄近)、ザツバ1、シツカ2
 (抄)、シツパ1 (洞近)、ズツカ1 (近)、スツキ2 (抄)、スツバ1 (狂近)、
 テツキ1、トツク* (抄)、ドツピ*、ニツコ2、メツキ1、ハツキ1 (西狂近)、
 ヒツン2 (洞狂近)、ムツカ1 (西)、ムツチャ1、メツタ65 (抄)
 AAッA タツタ2、チヨツチヨ1 (近)、パツパ4 (近)、ヒヨツヒヨ1
 AAンB ガンザ1
 AAンA ザンザ* (西近)、ズンズ1 (近)
 AAロB シドロ3
 AAブリ ヲカリ3、ウロリ22、ガハリ2、ガラリ1 (抄近)、キヨロリ6 (近)、
 キラリ7 (抄)、キラリ1 (洞狂近)、キロリ1 (西)、グラリ1 (西)、グリ*、
 クルリ4 (抄狂近)、グルリ2 (近)、クワタリ1、クハラリ9 (抄近)、グハラリ
 2 (洞狂近)、コロリ1 (洞狂近)、サバリ1、サラリ3 (抄狂近)、シツリ1、シラ
 リ1、シロリ1 (西)、ツシリ1、スラリ5 (西近)、ズラリ2 (西狂近)、ソヨリ1、
 ソロリ1 (抄近)、ダラリ* (西近)、チラリ7 (西狂近)、ツラリ5 (狂近)、テ
 キリ1、スクリ1、ハキリ2、ハラリ4 (抄狂近)、バラリ1 (抄近)、ヒラリ1
 (抄狂近)、ヒリ1、フラリ1 (西近)、ブラリ1 (西近)、フハリ1、ホツリ1、
 ホロリ4 (抄狂近)、ムクリ1、ユルリ9 (西狂近)
 AABッ キリツ1、ズヒツ* (洞)、ハアツ1
 AABン エヘン2、ズトン1 (近)、ホカン1
 AAB一 ハア、2
 AA一 ハア1
 ◎三モーラの疊語
 AAッB キツシ〜1、ジツカ〜4、ズツカ〜1、テツシ〜1、トツ
 ク〜1、ノツシ〜1 (近)、ヒツシ〜4 (近)、ヒツタ〜1 (洞)、メツキ
 1 (狂近)
 AAッA タツタ〜1、ツツツ〜1

△ABロ〜V ヲボロ〜1(洞)

△ABリ〜V ウカリ〜1(狂)、キラリ〜5、クリ〜*、ケルリ〜16
(抄狂)、グルリ〜1(近)、サラリ〜1(洞狂近)、ジリ〜1(近)、ス
ラリ〜1(西近)、ズラリ〜1(西)、ソロリ〜12(西狂近)、ゾロリ〜10
(狂)、チラリ〜5(狂近)、パタリ〜1(近)、ヒラリ〜2(抄狂近)、ピ
ロリ〜1、ブラリ〜2(近)、フハリ〜1、ポツリ〜2(近)、モヤリ〜
2、ユラリ〜3(西狂近)、ユルリ〜2(近)

④四モーラ

△AッBリV イツキリ1(西)、ウツカリ23(西近)、ウツキリ7、ウツトリ3
(西近)、ウツホリ1、カツキリ17(洞)、ガツクリ*(近)、ガツカリ1(狂)、
キツカリ14(洞)、キツシリ21、キツチリ1、キツパリ2、グツシリ2(近)、
ツツトリ1、グワツトリ1(近)、コツクリ1、コツハリ*、コツトリ1(近)、サツ
パリ29(狂近)、シツカリ19(近)、シツクリ3(狂近)、ジツクリ3、ヂツチリ3、
シツトリ3(近)、ジツトリ2(西近)、シツパリ(近)、シツポリ3(西近)、ス
ツカリ3(近)、ツツカリ14、スツキリ23(近)、スツクリ*(近)、ズツシリ2
(狂近)、スツパリ3(近)、スツペリ11(近)、スツポリ1(近)、タツパリ5
(近)、テツキリ9、テツシリ4、トツクリ10(狂近)、ニツコリ21(西近)、ニツ
トリ23(西近)、ニョツコリ1、ノツシリ2(近)、ハツキリ19(近)、ハツシリ2、
バツカリ4(近)、ビツカリ*(近)、ビツクリ3(西狂近)、ヒツシリ14(洞狂近)、
ビツシリ5、ビツトリ20、ベツシリ1、ベツトリ56(洞近)、ホツカリ*(狂近)、
ホツコリ6(狂近)、ホツタリ*(狂)、ホツトリ1、ムツクリ20(西近)、メツチヤ
リ1、ユツタリ14(西)

△ANBリV オンポリ1(抄)、ランモリ1、ガンザリ44、コンモリ2(西)、シ
ンミリ1、スンズリ1、ズンブリ3、チンマリ3(近)、ドンミリ1(狂)、スンメ
リ2、ノントリ*、ノンポリ2、ハンザリ1、ハンゼリ1、ミンズリ3、ワンゴリ4
△A1BリV キイヤリ3、ヒイヤリ3(狂近)

△ABリV キヨロリ1、キラリ3(洞)、キリ、ツツ2(狂)、ゲラリツ2、
クハラリツ3(洞)、ゲハラリツ2(洞近)、ヂリ、ツツ1、チラリツ1(洞)

△ABaB V イシフシ3、ウヤナヤ1、シヤリムリ1、チゲハグ2、ドギマギ2、
ニコハコ2、ピラシヤラ1(近)、ムサクサ4(近)、ムシクシ1、ムチヤクチヤ2、
モヤクヤ1

△ABaB V ウジカハ1、エイヤツ3(西)、ガタヒシ*、ギチカハ1、ダククサ

1、チヨコスカ1、チロカハ4、ドチクシヤ1、ネバクニヤ1、バタクサ2(近)、
ヒラカハ*、ホツボク1

④四モーラの疊語

△AッBリ〜V キツカリ〜1、ヂツチリ〜1、ビツタリ〜1
△ABaB〜V モヤクヤ〜1

④六モーラ

△ABCaBC V シドロモドロ4(近)、テンガマンガ2、ドツピサツピ2
△AッBリアンV サツパリチヤン1

④七モーラ

△4・3V ウツカリウロリ2、ノンペンダラリ1、スンメリカハリ*

④八モーラ

△AB〜ab〜V グズ〜ゴデ〜1、ジク〜ジミ〜2、ジミ〜ジク〜
6、ジミ〜シト〜1、トバ〜ウカ〜*、モヤ〜ムラ〜2、ヤリ〜イ
ラ〜1

△その他の4・4V ツラ〜ベツタリ1、シヤリムリヒツシリ1

(付記)

敬微詞か否かの判定の基準は、△考Vに、

イ 原則として疊語形式をとる場合、連濁をおこすものは除く。

例外として「はのはの」「さめざめ」「たらたら」は主観的敬微詞と考え、
含めることにする。

ロ 漢語は除く。

ハ 明らかに既成の名詞、動詞、形容詞等から成立したとみられる語は除く。

ニ 掛詞となっている語も含める。

ホ 判断の困難な語で前記の「擬音語・擬態語辞典」(「前記」簡所の原注に、
天沼寧編 昭和四九 東京堂)に取り上げられている語は含める。

ヘ「と」(あるいは稀に「に」)が表記されていて副詞型の語もしくは「と」
を伴えば、副詞の働きを成し得る語は含める。

とあるのに従う。ただし、△考Vの資料には「しん〜」も採られているから、これ
もイの例外として扱う。ニに該当するものはなかった。

使用回数が多いもので、本稿が敬微詞から除外したものは、「些少」の意の「チト、
チツト、チヨト、チヨツト、ソツト」、擬音語の用例が見られずしばしば「長度、丁
度」とも表記されている「チャウド(テフド)」などである。